

隅 修三(東京海上HD)

1 イノベーションの舞台は 2 世界

- CO₂削減イノベーションの舞台は世界 日本は世界のための成長プロデューサーを目指す
- CO₂削減は経済成長や人口爆発が見込まれる国々や地域など世界全体を視野に入れた温暖化対策が必要
- ⇒省エネ・高効率エネルギー技術・質の高いインフラ展開等を通じてソリューションを提供し、主導権を発揮

あらゆる選択肢の追求

- 2050年までの間にも着実にCO₂濃度を積みあげる燃料は全てCO₂削減イノベーションの対象とし、前向きな投資を促進
- 途上国を中心に、安価な小規模LNG火力・小規模バイオマス発電・小型水力発電など、分散型設備の普及を図る必要
- 世界的温暖化の中でエアコンの省エネイノベーションなども我が国の得意領域であり成長戦略として期待

イノベーションを促進する 政策制度

- 日本が技術優位にある分野のCO₂削減効率基準の国際ルール化
- 2℃目標実現に向けたイノベーションには、民間だけでは負いきれない事業リスクを伴う可能性
(例)開発中で事業リスクの読み切れないCCS (Carbon dioxide Capture and Storage : CO₂の回収・貯留) など
⇒安定的かつ多様なエネルギー源を確保していく観点から、巨大リスクを官民でシェアするスキームも必要に応じ検討

1 TCFDの戦略的活用

- CO₂削減イノベーションに必要な投資を呼び込む起爆剤になるTCFDはこれからセクター別の開示競争
- ⇒この舞台も世界
- 日本企業が世界の投資家の評価を勝ち取るには、これまで培ってきた技術やハード/ソフトの両面で効率運営するノウハウや実績などを官民一体でアピールする必要
- <緩和策(Mitigation)の例> 「優れた省エネ技術/環境配慮型製品・サービス」「効率的な生産管理ノウハウ/製品のライフサイクルを通じた温室効果ガス削減などによるグローバルな低炭素貢献」
- <適応策(Adaptation)の例> 「巨大自然災害被災後の早期復旧・事業継続体制」等
- 日本企業の得意分野が光るライフサイクルアセスメント等を積極開示